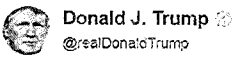


こちら特報部

「参院選後に分かる」

日米貿易交渉 トランプ氏の予告



Great progress being made in our Trade Negotiations with Japan. Agriculture and beef heavily in play. Much will wait until after their July elections where I anticipate big numbers!

ツイートを確認

21:38 - 2019年6月25日

21,173件のリツイート 86,402件のいいね

6,295 21,173 86,402

日米貿易交渉で大きな前進。参院選後に分かるだろうなどと書かれたトランプ米大統領のツイッター

5月の訪日中、トランプ米大統領は「日米貿易交渉で大きな前進。参院選後に分かる」などとツイートした。安倍晋三政権が、参院選前にはとても言えないほどの大幅な譲歩をしたのではないかと考えるのが普通だ。野党が「密約だ」と批判しても、安倍政権は無視してきたが、ともあれ参院選は終わった。いったいどんな「交渉の答え」が明かされるのか、探ってみた。(皆川剛、石井紀代美)

解を探る。

翌二十七日の記者会見でトランプ氏は「八月に発表ができる」と思っている」と発言。日本側に不利な内容を隠して選挙に臨むのか、と野党などから批判を受けた安倍政権だが、交渉について有権者に一切の説明をせずに参院選は終わった。トランプ氏の予告通りなら、近く中身が分かるはずだ。前嶋和弘・上智大教授(米国現代政治)は「茂木敏充経済再生担当相と会談を続けるライトハイザー米通商代表部(USTR)代表の表情には余裕がうかがえ、ハガティ駐日米大使も今月二十二日に任を解かれ離日した。既に交渉の大枠はまとまっており、いつ発

野党は批判

「密約では」

トランプ氏が日米首脳間の貿易交渉の「進展」に言及したのは、五月二十六日。安倍晋三首相と訪れたゴルフ場での昼食後、ツイッターに「貿易交渉で大きな前進があった。農産物と牛肉が中心だ。七月の選挙(参院選)後を待つ。大きな数字を期待している!」と投稿した。

農産物・牛肉 米へ譲歩「TPP超え」も

表があってもおかしくない」と指摘する。一体どれほど日本側に不利な内容なのか。ツイートにあった通り、農産物と牛肉で大幅譲歩した可能性がある。焦点は関税の引き下げ幅だ。安倍首相は参院選の投票締め切り後の二十一日夜、民放番組で「これまでの経済連携協定(EPA)が最大限だと決めている。これ以上にはならない」と述べた。米国が離脱して発効した環太平洋連携協定(TPP11)では、牛肉の関税は二〇三三年まで毎年段階的に下がり最終的には9%になる。日欧EPAでもほぼ同様だ。昨年の日米共同声明でも「過去のEPAの引き下げ内容が最大限」と明記した。

社長と芸人。結局は役者の差が大きく出てしまった。よつた。

しかし、鈴木宣弘・東京大教授(農業経済学)は「米国は『自分たちはTPP加盟国よりも高い関税を強いられる』という理屈でくる。9%ターゲットはあくまで『当面』で、追加交渉もありうる」と話す。牛肉以外の影響はさらに大きい。バターや脱脂粉乳はTPP11で米国が離脱したにもかかわらず、離脱前に設定された七万トンの低関税輸入枠が維持されている。これが削減されず米国に新たに輸入枠を設けることになる。日本は七万トンを上回る「TPP超え」の負担を強いられ、農家への打撃は大きい。

米大統領選 票田を意識 それにしてもわざわざ「待つ」と言いつつ、特に農産物と牛肉に言及したのは、なぜか。二〇年米大統領選を現地で調査する海野素央・明治大教授(異文化コミュニケーション論)は「大統領選で票田となるウイスコンシン州などを意識している」とみる。海野氏によれば、同州では、中国との関税合戦で倒産する農家が出てきている。牛肉に加え、豚肉や大豆、チーズの対中輸出が減り、中国への敵対心が強まっているという。トランプ氏は中国との交渉は長期戦と捉えている。同氏の狙いは来年の大統領選まで支持者の反中国感情を維持する一方で、譲歩を引き出しやすい日本との貿易交渉を成果として示すことにある。

正確な新聞記事をお届けするための最後の関門が校閲部。「紙面上は何も生み出していない部」が生み出した知っているとちょっと自慢できる言葉のアレコレが満載の言葉の雑学ブック

真検勝負 日本校閲記者の 使えてますか? 正しく 日本語、日本の言葉 使えてますか? 東京 中日新聞

エンターテインメント情報

吉本興業に問題



「月」 勝敗の差は何か。元テレビディレクターで上智大の水島宏明教授(ジャーナリ

プラスになったはず。でも吉本には知られたくないことが多くて、会見させるの

社長と芸人。結局は役者の差が大きく出てしまった。よつた。

ENTERTAINM

こちら特報部

市民生活へ影響必至

農産物などの関税で大幅譲歩をさせられる一方、約束が反故にされそう分野もある。自動車だ。

トランプ政権誕生前、日本は米国とTPPの枠組みで交渉していた。米国は自動車の輸入関税を引き下げ、一方、日本も輸入農産物の関税を引き下げるといって取り決めが進んでいた。だが、トランプ政権誕生後の二〇一七年一月に米国がTPPから離脱し事実上、ご破算になった。

日本政府は、このTPPの枠組みにこだわることが、トランプ氏は「米国の自動車産業の弱体化が米国の安全保障を脅かす」とし、関税を下げるどころか追加関税を検討。国費として来日した時も、TPP並みの関税撤廃を受け入れる可能性を否定した。となると一体、安倍首相とどんな妥結をしたのが気になる。

元経産官僚の古賀茂明氏は「日本は農産物の関税引き下げはのまされながら、米国の自動車関税はそのままとする事態になることも考えられる」と危ぶむ。そもそも日本側が交渉当

自動車 米輸入関税維持？ 為替 ドル安策導入？ 安 保 軍事協力を強化？



5月の日米首脳会談の冒頭、握手を交わす安倍首相（右）とトランプ米大統領（左）。東京・元赤坂の迎賓館で。

農産物をめぐり、米国の関税引き下げをめぐり、米国の自動車産業の弱体化が米国の安全保障を脅かす。トランプ氏は「米国の自動車産業の弱体化が米国の安全保障を脅かす」とし、関税を下げるどころか追加関税を検討。国費として来日した時も、TPP並みの関税撤廃を受け入れる可能性を否定した。となると一体、安倍首相とどんな妥結をしたのが気になる。



初から、農産物の関税引き下げについて「TPPの水準が最大限」と譲歩する構えを見せていたことに、古賀氏は「交渉の基本スタンスがおかしい。初めから『ここまでですよ』と譲歩するのは、普通の感覚ではあり得ない」と首をひねる。その上で「米国が言うていたのは『米自動車産業の生産と雇用を減らすな』ということ。これは『雇用を守るために、自動車関税は下げない』というメッセージと受け取れる」と語る。

貿易交渉でトランプ氏が要求しているのはこれだけではない。それは「為替策項」。「円安ドル高に誘導するような政策をするな」というものだ。経済アナリストの中原圭介氏は「自国の通貨が安い方が輸出企業にとっては有利。日本だけでなく、欧州連合（EU）にも米国が要求していることだが、『ドル安』にして輸出を増やしたいという思惑がある」と解説する。

企業は業績が悪化し、株価が落ちる。「株値の維持がアベノミクスの生命線。だから、安倍政権にとって、なんとしても阻止したいだろうが...」一方、貿易交渉と関連し、そのなには安全保障だ。トランプ氏は六月のG20サミットでも「日米安保条約は不平等だ」と発言した通り、安全保障面での「米側の負担」を繰り返し強調し、その見返りを求める傾向がある。日米安保体制に詳しいNPO法人「ピースアポロ」の梅林宏道氏は「日本は米国の世界戦略にもっと金を出して協力せよ」という考えがある。日本が貿易交渉で抵抗すれば、「ではこっちは譲歩しろ」と軍事面での協力を求めた可能性はある。例えば、米軍が南沙海に展開する駆逐艦を一

沈黙貫く首相「不誠実」

隻減らし、自衛隊に担わせたり、ホルムズ海峡を巡る有志連合に協力させたりする可能性もあるという。いずれにせよ、日本側に大きな痛みを伴いそう内容であり、参院選前に有権者へ知らせておくべき話だ。しかし、安倍政権は口をつぐんだまま選挙に突入した。政治評論家の森田実氏は「都合の悪いことは言わなくていい、認めなければ生き延びられる、そんな安倍首相の不誠実さが際立つ手法だった」と一刀両断にし、こう語る。

「交渉だからと外交を秘密にすれば、国民と政府の関係が薄くなる。国民の理解があつての外交なのに、支持も得ないで何をやるかというのだろうか。できるだけオープンに行うのが外交の基本。国民から孤立した外交は、長期的に見れば国を危険に陥れる」

「リスク」
わざわざ「困るだろうから選挙が終わるまで待ってやる」と言うこと自体、トランプ流の取引術か。待つてやった分は「貸し」だからと、ツイートした段階よりさらに譲歩を迫っていても不思議ではない。もちろん、安倍首相の「借り」を返させられるのは国民だ。理不尽極まる。(歩)

2019.7.24

話題の発掘

家族を介護する方

ビジネスに専らする方

【そら】

申し込み受付中！ ユニバーサルマナー検定 8月日程

ユニバーサルマナー検定3級 in 品川

日程 2019年8月6日(火) 講師 3級 日本ユニバーサルマナー協会講師
時間 3級 19:00~21:00(18:30受付開始) 受講料 3級 5,000円(税込)